

新しい県立美術館について

～先人の努力と歴史のうえに未来に向けて生まれ変わる～

- 展覧会などソフト面での大幅な充実と新展開
- ハード面での飛躍的な充実



芸術文化の拠点拡充 とともに、
新しい憩いの場、新しい観光スポット
が誕生

展覧会などソフト面での大幅な充実と新展開

1 展覧会、コレクションの拡充

- ・ 新たに、収蔵品を常設展示
- ・ これまでできなかった国宝・重要文化財や全国規模の巡回展を開催
- ・ 新テーマ「自然と人の共存・共栄」
コレクション領域の拡大・充実

2 美術による“学びの支援”の拡充

3 県内美術館が連携する新しい取組の中核的役割を果たす

① 展覧会、コレクションの拡充

○ 常設展を **年6回** 開催（常設展示室を新設）

菱田春草や村山槐多など**4,600点**あまりの収蔵品をお披露目

○ 企画展を **年5回** 開催（企画展示室を増設）

今までご覧いただけなかった**国宝**や**重要文化財**、**全国規模の巡回展**を開催（公開承認施設）



菱田春草《羅浮仙》

○ **「自然と人の共存・共栄」**を新たにテーマ設定

コレクション・ポリシー（作品収集方針）の拡充

長野県ゆかりの作品だけでなく、**国内外の優れた作品**の収集や**近現代の美術作品**の拡充

② 美術による "学びの支援" の拡充

学習プログラムを専門に担当する学芸専門員や、ライブラリー専属の司書を配置し、美術による学びを支援・強化

- **アート・コミュニケーター（人とアートのつなぎ手）**による対話型鑑賞
- 学芸員等によるワークショップの開催
- **アート・ライブラリー**の新設



未就学児の鑑賞教育（写真提供：大原美術館）



学芸員によるワークショップ

③ 県内美術館の中核的役割

博物館・美術館数が全国第1位の本県において、県設置の唯一の美術館として、連携した企画によりその中核的な役割を果たす

- ◆交流展…県内美術館と共同で企画・実施する展覧会を開催
- ◆移動展…県内において、当館のコレクションを公開する移動展覧会を開催
- ◆若手作家の育成…今後活躍が期待される若手芸術家に創作活動や発表の場、国内外の芸術家と交流する機会を提供



飯田市美術博物館における交流展の様子

ハード面の飛躍的な充実 新しい憩いの場、観光スポットの誕生

- 1 新しい景観を生む「ランドスケープ・ミュージアム」
- 2 誰もが気軽に立ち寄りたくなる無料ゾーンの充実



① 新しい景観を生む「ランドスケープ・ミュージアム」



↑ 屋上広場（奥が善光寺境内）



本館と東山魁夷館の間の水盤に設置する
中谷芙二子「霧の彫刻」のイメージ



↑ 北西からみた外観（高さを抑えた設計）

- ◆ 国宝 善光寺本堂の撞木造り^{しゅもく}を横から眺める新しい景観を創出
- ◆ 本館と東山魁夷館の間の水盤周辺に中谷芙二子氏の「霧の彫刻」を設置
- ◆ 建物が突出することなく、周辺の風景の中に溶け込むよう高さを抑えた設計

② 無料ゾーンの充実



カフェレストランから善光寺を眺める眺望（2F）



屋上広場のイメージ(3F)

チケットレス をご利用いただける施設

- ◆ 交流スペース
- ◆ カフェレストラン、ラウンジ
- ◆ ミュージアムショップ
- ◆ 触れる美術作品や映像作品の鑑賞
- ◆ アート・ライブラリー
- ◆ 屋上広場

その他の施設

- ◆ レセプションルーム(館主催イベントで使用)



触れる美術作品の展示イメージ(2F)

大きく生まれ変わるに当たり、**美術館の性格**（展示、コレクションの広がり。県設置の唯一の美術館）を分かりやすく表し、**県内外・世界の皆様に広く来館を呼びかけるもの**として、

「長野県立美術館」

としてリスタート！

【先人の取組への敬意と歴史の継承】

先人の取組に対する敬意と感謝、県民の力で生み育てられ、愛されてきた歴史を
しっかりと継承し、これまで以上に親しまれる美術館となるために・・・

1 県民の作品発表の会場となる「**県民ギャラリー**」及び
誰もが気軽に憩い、ワークショップ等を行う「**交流スペース**」
に「**しなの**」の呼称を入れる （「しなのギャラリー」など）

2 旧信濃美術館への思いをとどめるため、旧館跡地に建物を建てず、水庭
の空間として整備

3 旧信濃美術館の姿を写した陶板や
創立時の寄付者銘板からなる
モニュメントを、水庭を見下ろす
場所に設置



県民ギャラリーのイメージ



本館と東山魁夷館の間のカスケード（水庭）